

●自由論題報告 第8A 部会：経済と人口 (Demography and Economics)

座長：松浦 司 (中央大学)

1. 在日外国人と社会保障～生活保護を中心に～ …………… 浅川 晃広 (名古屋大学)
2. 就業形態による賃金格差とその格差要因の分解 …………… 金 秀炫 (お茶の水女子大学)
3. 経済危機後の妻の追加就業効果—母親の再就職を通じて— …… 小林 淑恵 (東洋英和女学院大学)

●自由論題報告 第8B 部会：女子労働 (Women's Labor)

座長：渡辺真知子 (明海大学)

4. 仕事・職場特性は、就業と出産の選択に影響を与えているか …… 山谷 真名 (お茶の水女子大学)
5. 女性の就業と出産・子育てに与える職場環境の影響 …………… 永瀬 伸子 (お茶の水女子大学)
6. 賃金と仕事満足の変化と離転職 …………… 田中 規子 (慶應義塾大学)

●自由論題報告 第9A 部会：人口移動Ⅲ (Migration Ⅲ)

座長：石川 義孝 (京都大学)

1. 配偶関係別純移動率の推計：札幌市1995年—2010年 …………… 原 俊彦 (札幌市立大学)
2. 人口移動と進学率 …………… 清水 昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 人口移動の国際比較 …………… 岡本 政人 (総務省)

●自由論題報告 第9B 部会：地域人口 (Regional Populations in Japan)

座長：山内 昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)

4. 生活満足度の規定要因に関する分析：地域你的生活環境の影響 …… 水落 正明 (三重大学)
5. 未婚率の地域パターンの変動 …………… 高橋 眞一 (新潟産業大学)
6. 未婚率と人口性比の動向—長崎県を中心にして— …………… 工藤 豪 (日本大学)
(鈴木 透記)

比較家族史学会第54回大会

日本比較家族史学会の第54回研究大会が2012年6月16日(土)～17日(日)の2日間にわたって京都大学芝蘭会館稲盛ホール(京都府京都市)で開催された。今回の大会では、16日午前の一般報告と、16日午後から17日にかけてのシンポジウム「アジアの家族と親密性—アジア家族研究の共通基盤形成」が行われた。シンポジウムは、京都大学グローバルCOE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」との共催によるものであった。同COEでは、アジア諸国・地域で影響力の大きかった研究成果を収集・精選、英訳したものを「アジアの家族と親密性」と題した7巻の英文リーディングスとして出版するための作業を進めており、シンポジウムではその成果を踏まえた報告および討論がなされた。報告タイトルは下記の通りである。

一般報告

- 「近世後期海村の結婚・離死別・再婚—肥前国野母村を事例として」 中島満大 (京都大学)
- 「幕末相模国大住郡横野村における養子縁組—近世近代日本の家・村・百姓株」
戸石七生 (東京大学)

シンポジウム「アジアの家族と親密性ーアジア家族研究の共通基盤形成」

- 「家族イデオロギーと国家」 タネート・ワンヤンナワー (タマサート大学)
コメント 林研三 (札幌大学)
- 「家父長制と父系制」 殷棋洙 (ソウル国立大学)
コメント 米村千代 (千葉大学)
- 「性愛」 パトリシア・ウベロイ (開発途上社会研究センター)
コメント 八木透 (佛教大学)
- 「結婚と離婚」 ゲエン・フウ・ミン (ベトナム社会科学院)
コメント 浜野潔 (関西大学)
- 「ケア・レジーム」 落合恵美子 (京都大学)
コメント 田淵六郎 (上智大学)
- 「ジェンダー」 キャロライン・ソブリチア (フィリピン大学)
コメント 三成美保 (奈良女子大学)
- 「フィリピン」 長坂格 (広島大学)
- 「中国」 候楊方 (復旦大学)
コメント 藤井勝 (神戸大学)
(山内昌和記)

アメリカ人口学会2012年大会

アメリカ人口学会 (Population Association of America) の2012年大会が5月3日～5日の日程でカリフォルニア州サンフランシスコにて開催された。今次大会は2,100人以上が参加し、また、報告者数が多かったことから、最終日の夕方までセッションが追加されるほどの盛況であった。

ペーパーセッションは合計で216あり、分野ごとには、「出生・家族計画・性行動・リプロダクティブヘルス」(42)、「結婚・家族・世帯・連帯」(32)、「子ども・若者」(21)、「健康・死亡」(40)、「人種・エスニシティ・ジェンダー」(10)、「移民・都市化」(23)、「経済・労働力・教育・格差」(15)、「人口・開発・環境」(10)、「人口・高齢化」(8)、「データ・方法論」(8)、「応用人口学」(7)となっていた。日本ではあまり多くない健康・死亡のセッションも全体の約2割を占めており、健康・死亡研究の現状がわが国とは大きく異なっているのが印象的である。また、ポスターセッションは7セッション設けられていた。

当研究所からは、金子隆一副所長、岩澤美帆人口動向研究部室長、暮石渉社会保障基礎理論研究部室長、是川夕人口動向研究部研究員と筆者の5名が参加した。このうち、金子副所長がポスターセッションにて“Fertility Trends and Processes in Japan: Re-Examination of Marital Fertility”，岩澤室長がセッション“Fertility Research in a Comparative Perspectives”にて“Educational Differences in Fertility Intentions: A U.S.-Japan Comparison”，暮石室長がポスターセッションにて“Precautionary Savings and Single Women in Japan”，筆者がポスターセッションにて“Application of Tangent Vector Fields on the Log Mortality Surface to Mortality Projection for Japan”との報告を行った。

年次大会の開催期間中には、これらの通常のセッション以外にも特別なセッションがいくつか開催されるが、筆者らは国連人口部の2010年推計に関するセッションに参加した。ここでは、2010年推計で使われた確率推計に関連したプレゼンテーションや討議が行われ、大変興味深いものであった。

(石井 太記)